

# 「人生の最終段階にある患者の意思に沿った救急現場での心肺蘇生」【資料1】 に関する救急隊の標準的活動指針と活動プロトコール

令和6年12月16日に県MC協議会で【DNARプロトコル】が策定されました。  
熊本市消防局は、策定のコアメンバーとして当初から携わり概ね変更する場所はないものの、1点のみ市MC協議会の中で協議する必要があります。

## プロトコル 5頁 心肺蘇生等の中止後活動指針（協議案件は赤字部分になります）

- 心肺蘇生中止後も、医師による死亡確認までは、尊厳をもって患者に対応する。
- 心肺蘇生中止後は、原則、傷病者を医師に引継ぎ、プレホスピタルレコードに医師の署名を得る。なお、直接医師に引き継げなかった場合は、後日、医師に署名を求める。
- 医師の現場到着が長時間（40分以上）かかることが予想され、医師に相談した結果、医療機関に搬送しない場合は家族等から「医療機関への不搬送等同意書」に署名をもらい、現場から帰任する。
- 心肺蘇生中止の判断後、医療機関までの移送を依頼された場合は、地域MCのプロトコールに則って対応する。**（なお移送する場合は普通走行が妥当である。）

### 他本部情報など

DNARの傷病者について、心肺蘇生中止の判断後、医療機関まで移送（処置をせずに搬送）を依頼された場合、対応方法はどうされていますか？

緊急搬送で何もせず搬送	普通走行で移送	緊急搬送で救命処置を実施し搬送
1本部 (神戸市)	3本部 (仙台市・名古屋市・広島市)	15本部 (札幌市・新潟市・さいたま市・千葉市・横浜市・川崎市・相模原市・静岡市・浜松市・京都市・大阪市・堺市・岡山市・北九州市)

#### 移送という考え方について

心肺蘇生法を実施しない、死亡確認や死亡診断のための搬送は、総務省消防庁から「**救急業務に該当しないと考えられる**」との見解が示めされているため、移送で医療機関に搬送することはできません。

#### 消防法第2条第9項の規定

救急業務とは、緊急に搬送する必要があるものを、救急隊によって、医療機関その他の場所に搬送することをいう。

#### 道路交通施行令第14条

##### （緊急自動車の要件）

緊急自動車は、緊急の用務（**患者搬送を含む**）のため運転するときは、サイレンを鳴らし、かつ、赤色の警光灯をつけなければならない。

### 協議内容

#### 移送 もしくは 搬送する場合

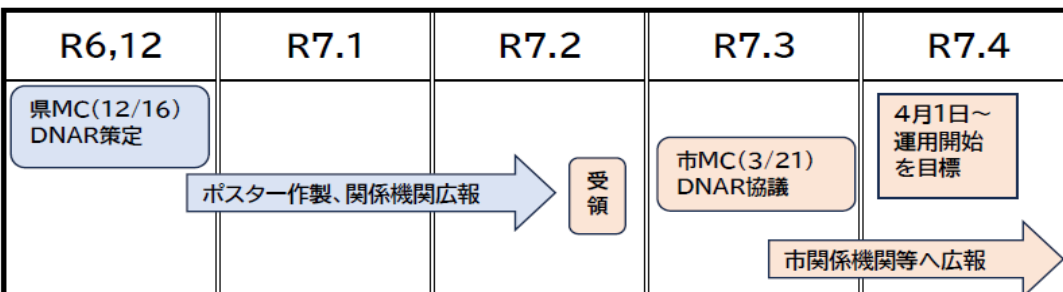
案	サイレン吹鳴	処置	搬送方法
①	なし	なし	移送
②	あり	なし	緊急搬送
③	あり	あり	緊急搬送
④	搬送しない		

#### ③ 案で考えていますが、次のように補足します。

原則、サイレン吹鳴と救命処置を実施し搬送。  
救急隊は、搬送先医師に現場状況を伝え、処置内容については医師に判断を仰ぐ。

#### ④ 搬送は実施しない

### 市局スケジュール



市MC協議会で承認後、関係機関等に周知開始します。